

## 《課題名》

虚血性脳卒中における予後予測因子の検討

## 《研究対象者》

2014年7月1日から2019年3月31日までに滋賀医科大学附属病院脳神経内科において、脳梗塞と診断され入院治療を行った方

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただかずに、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

### （1）研究の概要について

研究課題名：虚血性脳卒中における予後予測因子の検討

研究期間：承認日（2019年5月9日）～2023年月3日31日

研究機関・実施責任者： 滋賀医科大学 《所属》内科学講座 脳神経内科 《氏名》小川暢弘

### （2）研究の意義、目的について

#### 《研究の意義、目的》

【目的】脳梗塞は寝たきり、認知症の原因として上位の疾患であり、その治療法の選択は予後を左右するため重要です。近年、脳梗塞急性期治療として血栓溶解療法や血管内治療の急速な発展があり予後が劇的に改善しつつあります。しかしながら、これら治療が適応できる患者様は全脳梗塞患者の1割程度に過ぎません。さらに、現行の治療法を用いても治療抵抗性かつ進行性の病態が存在することも知られています。血栓溶解療法など積極的な治療は出血リスクの問題点もあり、治療開始時に明確な予後予測を行い、必要な患者様に安全に治療を施行することが望まれます。発症時に正確に症状進行や治療に伴う出血の危険性などを予測しうる指標は様々な要素が提唱されているものの、いまだ十分ではなく、今後も継続し検討すべき課題であると考えられるため、当院での現状を評価することで、臨床的な治療の介入の際の指標をえることを目的とします。

【意義】脳梗塞発症時に正確な予後予測が可能となれば、脳梗塞の患者様に対する積極的な治療選択を遂行する指標となるばかりではなく、危険性が上回る患者様の予測により、さらに安全な治療介入法の検討を行うことができます。

### （3）研究の方法について

#### 《研究の方法》

入院治療の開始に当たり、検査を行った血液検査結果、画像検査結果、生理学的検査結果などの情報を後ろ向きに比較検討します。この研究によって追加される検査や検討項目はございません。

### （4）個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

抽出されたデータは個人が特定できない形で匿名化され、解析が行われます。研究にあたっては、個人を容易に特定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

#### **(5) 研究成果の公表について**

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

#### **(6) 研究計画書等の入手又は閲覧**

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

#### **(7) 利用又は提供の停止**

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、2023年3月末日までに）下記（8）にご連絡ください。

#### **(8) 問い合わせ等の連絡先**

滋賀医科大学 内科学講座 脳神経内科《対応者氏名》小川暢弘

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号： 077-548-2160

メールアドレス： ogawa@belle.shiga-med.ac.jp